

平成30年度 ピア・サポート活動年間プログラム

藤枝市立（藤枝中央小）学校

1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	【第1ステージ】 友だちいっぱいステージ ・1年生迎える会・遠足 ・ペア顔合わせ	人間関係づくりプログラムや、ピア・サポートプログラムを活用し、スキルトレーニングを実践できるよう、位置づけていく。 (各学年で学活・道徳等で実施) じゃんけん列車、ふわふわことば ①出会い 「クラスのメンバーを知ろう」 「友だちの好みを知ろう」 「自分のことを知ってもらおう」	本校におけるピア・サポートの位置づけを提案 (職員会議)
5月	・運動会		年間計画を提案
6月	【第2ステージ】 チャレンジステージ ・朝礼 ・授業を見合う旬間 ・原地区ふれあいサロン(2年)	②聴き方 1年「だるまさんが〇〇をしよう」 2年「まちがえないで聴けるかな」 3年「知らなかった〇〇さんの一面」 4年「上手に聴こう」 5年「上手に話を聴けるかな」 6年「もっと上手に話を聴けるかな」	ピア・サポート研修会の伝達
7月	チャレンジ集会		
8月			
9月	・親善音楽会励ます会 ・陸上選手励ます会 ・敬老会(5年)	③自己表現 1年「くまとあなぐら遊びをしよう」 2年「いろいろ違って楽しいね」 3年「認めてもらえるってうれしいな、認めるって素敵だな」 4年「上手に頼もう」 5年「気持ちの伝え方を知ろう」 6年「気持ちの伝え方を知ろう」	
10月	【第3ステージ】 レベルアップステージ ・PTC大会	・教師がピア・サポートの視点で価値付け。 ・見える化。	
11月	・校内音楽会 ・木町いきいきサロン(3年)		ピア・サポート研修会の伝達
12月	・授業を見合う旬間 ・原地区ふれあいサロン(1年)		
1月	【第4ステージ】 ありがとうステージ ・体力アップコンテスト ・授業を見合う旬間	④自分の気持ちへの対処・対応 1年「どんな気持ちかな」 2年「心の中の鬼をさがそう」 3年「今のわたしの色は何色？」 4、5年「自分の気持ち、みんなの気持ち」 6年「怒りの気持ち(カンカンくん)と仲良くなるよう」	
2月	・ボランティア感謝の会 ・6年生ありがとうの会		ピアサポート研修会の伝達
3月			今年度の振り返り 来年度に向けて

ピア活動(ペア学年で遊びや集会を行う中で、互いのよさを見つけ合う。)

日々の生活(相手の気持ちに立って友だち、異学年とかかわる。「きらきら見つけ」等お互いのよさを見つけ認め合う。)

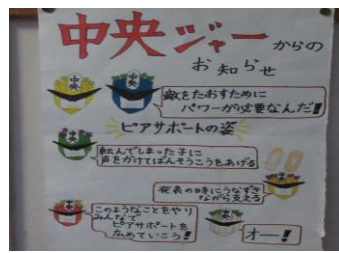
打ち合わせ等でピアサポート活動の呼びかけ・実践の紹介をする。

## 2 本校のピア・サポート活動の紹介

### ①ピア・サポート活動の提案【提言3】

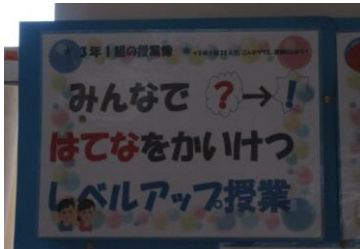
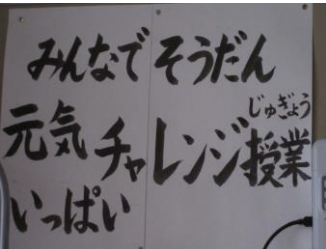
4月の職員会議でピア・サポートの位置づけを提案し、本校で取り組んでいきたい活動について職員間で共通理解を図った。

また、6月には児童会が中心となり、全校にピア・サポートを広める活動を行った。児童会は「ピア・サポート戦隊・チュウオウジャー」という劇で、ピア・サポートとは何かを具体的な場面を演じることを通して伝えた。子どもたちの中にも、ピア・サポートが広がることで、中央小学校全体がよりあたたかくなるということについて共通理解が生まれた。



### ②授業像の設定【提言6】

研修テーマである「聴き合い 話し合い 考える授業」に沿って、各クラスで授業像を設定した。どの学級でも子どもたちが授業像を意識し、自分の意見を伝え合おうとする姿が見られた。



### ③陸上選手を励ます会【提言3、4、6】

陸上大会に参加する6年生のために、5年生を中心に陸上選手を励ます会を行った。5年生が下級生に会の内容を伝えたり、応援歌の指導をしたりすることを通して、学年の垣根を越えた温かい交流が見られた。励ます会当日では、1～5年生の応援する気持ちを伝えることができた。6年生は、下級生の応援を受けて、中央小の代表として頑張ろうという決意を全校に伝えた。



### ④親善音楽会出場者を励ます会【提言3、4、6】

3年生の実行委員を中心に、親善音楽会出場者を励ます会を行った。下級生が励ましのメッセージを送り、親善音楽会を経験してきた上級生は、アドバイスを伝えた。また、4年生のペア学年である2年生からは応援の手紙を一人一人に書いて、渡した。出場する4年生も、本番に向かって頑張るという姿勢を曲に乗せて全校生徒に伝えた。



### ⑤ペア活動【提言6、7】

月に一度、昼休みに異学年との交流としてペア活動を行っている。4月の遠足では、6年生は入学して間もない1年生のペアを連れて蓮華寺池公園まで歩いた。その中で、1年生が楽しめるように、積極的に話しかけたり、一緒に遊んだりする姿が見られた。

また、5年生は、初めて社会科見学に行く3年生のために、おくりものをして励ました。お返しに、5年生が社会科見学に行くときには3年生が応援のメッセージを送った。

4年生は毎回2年生のために遊びを企画し、みんなで楽しめるように進化した。また、今まで遊びを考えてくれた4年生のために2年生が遊びを考えるなど、お互いのことを考える意識の育成に繋がった。



### ⑥人間関係づくりプログラム【提言4、5】

学期ごとに、各学級で人間関係づくりを行った。「出会い」「聴き方」「自己表現」「対処対応」の4つのプログラムを、子どもの発達に応じて取り組んだ。子どもたちは体験を通して、人や自分と気持ちよく関わる方法について学んだ。

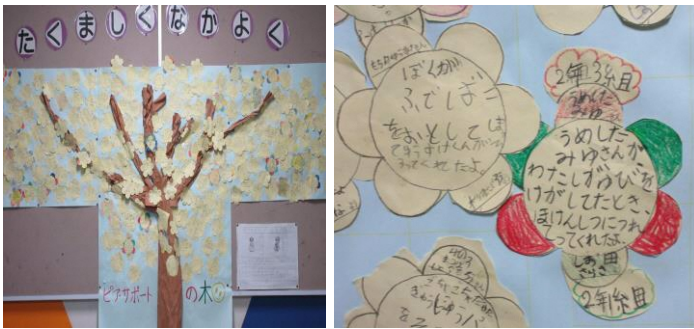




### ⑦ピア・サポートの木【提言7】

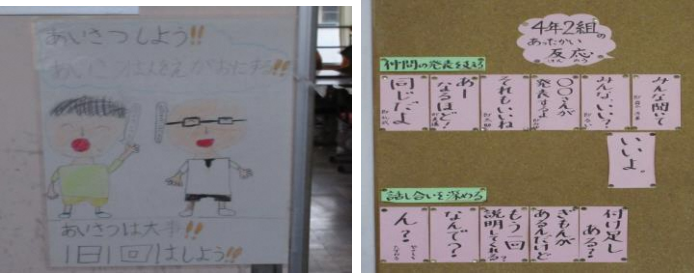
児童会を中心に、「ピア・サポートの木」という活動を行い、子どものピア・サポートの表れを全校に広めた。多くの子どもたちが、自分が見つけた友だちのピア・サポートを花型の用紙に書いた。それらを靴箱前の木型の掲示に貼っていった。多くの子どもたちが、日に日に花が増える喜びを感じた。「自分も探してみよう。」という意識をもった子どもの育成に繋がる取り組みとなった。

また、ピア・サポートの花に書かれていることを昼の放送で紹介することで、友だちのピア・サポート活動を広める取り組みも行った。



### ⑧各学級の取り組み【提言7】

各学級でも、子どもたちへのピア・サポート活動の普及を図り、あいさつを呼びかける掲示を作ったり、自分や友だちの良いところを壁に掲示したりするなどの、様々な取り組みを行っている。



### ⑨あいさつ名人【提言6】

6年生が中心となり、中央小にあいさつを増やそうと、あいさつ名人という取り組みを行った。毎朝6年生が靴箱前に立ち、全校生徒にあいさつをすることで、下級生の見本になった。また、その日のあいさつが良かった人を昼の放送で紹介することで、周りの友だちのピア・サポートを見つける活動にも繋がった。



## 3 本年度の成果と課題

(成果)

- 前年度の活動を継続しつつ、チュウオウジャーなどの新しい活動を取り入れることができた。その中で、友だちとの関わり合いや、友だちの良さに気づくことのできる子どもが増えてきた。
- 放送や掲示を通して、友だちのピア・サポートを紹介する活動を行ったことで、「自分もやってみよう」と、子どもが意欲的になり、学校の中におけるピア・サポート活動の広がりを感じた。

(課題)

- △年間計画に「人間関係づくりプログラム」の取り組みを位置づけたが、学年、学級によって取り組みに差があった。
- △「あいさつ名人」に取り組んでいる間は、子どもどうしのあいさつが増えていたが、企画が終わってしまうと減ってしまった。

## 4 来年度に向けて

来年度も、今年度に行ったピア・サポート活動を継続して行っていきたい。また、子どもの表れが一時的なものにならないような手立てを講じたい。

また、「あいさつ名人」の活動により、子どもたちが活発にあいさつをする姿が見られた。その一方で、地域の方へのあいさつの声が少ないと感じた。来年度は学校内だけに留まらず、家庭や地域にもピア・サポートが広まるようにしたい。